

「公益社団法人 上伊那教育会」

# 平成30年度 第5回 総会

◇日 時：2019年3月1日（金）

◇場 所：上伊那教育会館講堂

## 《 次 第 》

### 1 開 会

### 2 上伊那教育会の歌『仰望』

### 3 会 長 挨 拶

### 4 信濃教育会第22回教育研究論文教育実践賞 贈呈式 及び 研修会

### 5 報 告

(1) 信濃教育会常任委員会報告（飯澤 会長）

(2) 信濃教育会臨時総会報告（小澤 常任委員）

(3) 上伊那教育会理事会報告（飯澤 会長）

### 6 議 事

【第1号議案】 「2019年度上伊那教育会事業計画（案）の承認」に関する件

【第2号議案】 「2019年度上伊那教育会収支予算（案）の承認」に関する件

【第3号議案】 「2019年度上伊那教育会資金調達及び設備投資の見込み(案)の承認」に関する件

### 7 協 議

(1) 会員増に向けた各校の取組について

### 8 諸 連 絡

(1) 平成30年度教科部研究のまとめの冊子について

(2) 2019年度教育会新規加入・リーフレットについて

(3) 2019年度教育関係団体年間計画表について

(4) 2019年度教育会各種委員推薦について

(5) 2019年度年度役員選挙について

○役員等候補選出委員の確認

○年度当初の選挙事務について

(6) 2019年度教科等教育研究会加入について

### 9 議長退任挨拶

### 10 閉会挨拶



## 飯澤 隆 会長挨拶

平成30年度も余すところ1ヶ月となりました。卒業式まで2週間で切った学校もあります。高校入試、卒業式が滞りなく行われることをお祈りしております。

上伊那教育会もまた同様に、本年度のまとめをして、来年度の構想・準備を進めていく時期となりました。本日の総会は、本年度最後の総会となりますが、次年度へ向けての事業計画・予算案等を審議していただきます。前回の総会では、各学校から寄せられた「諸事業の改善・充実に関する意見・要望」と「あり方委員会の答申」「未来継承委員会の答申」をもとにご協議いただきました。代議員の皆様からも、建設的なご意見をたくさんいただきました。来年度は、そのような会員の皆さんの声を大事にして、あり方委員会、未来継承委員会の答申を受け、さらに本年度の事業の反省と成果の上に立って、まずは現状を見直し、会員の主体的な参加、参画を目指し、職能団体としての公益事業の推進に力を注いでまいりたいと考えています。

上伊那教育会は、明治12年、県下で初めて教員有志によって設立された上伊那郡教員集會に端を発します。それは、当時の画一的な教育を脱し、自分たちの手で子どもや地域に根ざした教育を創造したいと願う、教師たちの止むに止まれぬ思いからでした。今から100年程前の大正10年、上伊那教育会は伊那の地に図書館を作り、文化の中心となる建物を作ろうと決議をしました。しかし、思うように資金が集まらず計画が進みませんでした。計画が頓挫しかけたとき、片倉製糸で重役を務めていた実業家、辰野町出身の武井覚太郎氏に何度も何度も援助をお願いし、破格の七万円、現在の価値で八億円に相当する寄付をいただいたのです。そして、昭和5年12月、念願かなって、上伊那図書館が完成します。待望の教師の拠点であり、上伊那の文化の中心である上伊那図書館が完成したのです。上伊那図書館は、現在の伊那市創造館です。それ以来、この上伊那図書館に多くの先生方が集い共に学んできました。上伊那の先生方が集って、学ぶことを大事にしようとする気風は、さらに高まりました。そして、平成24年、上伊那教育会は、公益社団法人として新たな出発をしました。私たち教師の研修が公であることが認められ、今でも共に学ぶという気風がつながっています。

本年度は、テーマに「共学 共育」を掲げ、「上伊那誌自然篇改訂増補版」の配本、県外教育関係機関研修の継続、三大研修等各事業の充実を図って参りました。読み合わせ会のときに「読み合わせ会に毎回出ていますが、私は全く理解できません。」と話し、夏期講習の閉会後に「読んだり話し合ったりしているうちに、純粋経験が少し分かってきました。」と語ってくれた若い先生、熱い目で川崎小学校の実践を見つめ「こんな話し合いが、私の教室でも実践できたら良いな。」と語る先生方、「いつもこういう会に出ると、具体的な子どもの姿が見えず、ただ一方的に聴いて終わりということが多いのですが、この会は実践発表があり、それに対して分散会があり、さらに一年間の実践へのご指導があり、そして講師の松木先生から実践を踏まえながらのお話をいただき、本当に一体化した研修会で、とても勉強になりました。」と語る女性の先生等、熱心に学ぼうとする多くの先生方に出会え、本当にうれしく思いました。教育会の様々な研修を通して、私も会員の皆さんと共に学ぶことができ、大きな刺激を受けました。主体的に学ぶこと、先生方同士がつながり合うこと、それは、これからの時代も欠かすことのできない大切なことだと思います。

上伊那教育会が、会員の先生方の研修の充実、そして先生方のつながりを構築することへの手助けとなることが今後ますます必要になってくるのではないかと思います。自信と自負をもって、会員の皆さんと共に歩む上伊那教育会として、さらなる充実発展を目指していきたいと思っております。そのためにも、何をおいても、より多くの会員が参加参画し、共に創り上げる教育会でなければなりません。外からではない、内からです。



代議員の皆様には、共に研修することの重要性をしっかりと話していただき、継続して加入してもらえるように、是非熱を込めての働きかけをお願いいたします。

話は変わりますが、本年度も各校より信教研究論文・実践賞への応募をいただきました。ありがとうございました。その中で、西春近北小学校の論文が準特選に選ばれました。本当におめでとうございます。後ほど論文の紹介をしていただきます。一年間の自分の実践を振り返り、一つのレポートとしてまとめるということは、大切な研修です。そのこと自体が素晴らしい実践だと思っています。代議員の先生方、学校に戻られましたら、応募していただいた先生にお礼と激励の言葉をかけていただきたいと思います。

終わりに、もとより力のない名ばかりの会長で、一年間会員の皆さまには大変ご迷惑をおかけしましたが、皆様のお支えのお陰をもちまして、何とか本日まで業務が推進できましたことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 信濃教育会第22回教育研究論文教育実践賞贈呈式 及び 研修会

### (1) 贈賞式

飯澤会長より、伊那市立西春近北小学校 浦野孝文 教頭に、賞状と副賞を贈呈した。

### (2) 研修

信濃教育会第22回教育研究論文教育実践賞において準特選を受賞した、伊那市立西春近北小学校 浦野孝文教頭から、受賞した『すばやく判断ダンゴムシ命を守る合い言葉～地域災害の学習を通して、命の大切さを学ぶ子ども達～』について講話を聞き、実践に学んだ。



### (3) 講話内容

今、ここで大規模な地震が発生したら、先生方はどうされますか？私たち西春近北小学校が防災、特に地震に特化した研究に手をつけ始めた理由は、単純なことでした。私たちは日々の暮らしをいまのところ大過なく過ごしています。しかし、突然災害は私たちを襲います。それが、子どもたちが学校にいる時間帯だとしたら…私たちは4月に行われた避難訓練の様子を見て「このままではまずい」と考えました。緊張感のない移動。校庭に避難した後も絶えないおしゃべり。これで災害に備えていると胸を張って保護者や地域に言えるのか。私たち自身の防災に対する姿勢を反省したとき、見直さなくてはならないことが山ほどあり、それを一つ一つ検証し、改善を図っていくことが急務であることに気づきました。子どもたちを家庭からおあずかりしているにもかかわらず、十分な安全を確保しているとは言えない実状。私たちは本当に「命の教育」を行っているのだろうか…「災害について多角的に学ぶことが、自分の命、さらには他社の命を大切に育てる」という立場に立脚し、私たちは「災害から命を守る学習を通して、自他の命を大切にできる子どもの育成～管理面の強化と子どもと教師の意識づけ～」を研究テーマに掲げ、研究を進めることにしました。

研究を進めるにあたり、私たちは安全教育と安全管理を関連させて取り組む必要があると考えました。研究は学校施設の安全整備を行う「安全基盤づくり部会」と、授業を通して児童の安全に対する意識の昂揚を目的とした「安全教育部会」という二つの柱で行いました。

「安全基盤づくり部会」では、「全児童がヘルメットを椅子の下に常備」「校舎内外の危険箇所の洗い出しと改善」「非常持ち出し袋の常備」「児童引き渡し訓練の復活」「地震体験車の学習を通したシェアリング」を行いました。児童の命を完璧に守れる保障なんてありません。しかし、守れる備えはいくらでもできます。室内の整理整頓から、予算を計上して修繕するところまで、改善できるところはどんどん手を入れました。しかし、これが終わることはありません。日々、学校の中を防災とい

う視点で見つめ直してみると、「あ、ここをなんとかしないと」とか「この備えはどうなっているか」ということがたくさん見つかります。その一つ一つに丁寧に対応していくことで、地震に強い学校をつくっていけると考えています。

また、「防災意識の啓発」も担いました。飯田市役所危機管理室の後藤武志先生を、本校の防災アドバイザーとしてお招きし、職員研修で災害時に備えた対応の必要性を学んだり、PTA・同窓会・公民館・育成会主催の講演会では、災害時に訪れる避難所生活を想定して、人権に配慮した防災への備えについて学んだりしました。また、元栄小学校長大日方秀康先生をお招きし、避難訓練を視察していただき、長野県北部地震の経験談を全校児童が聞く会を行いました。この日の給食の献立は、避難所生活を想定したものにしました。

次に、「授業研究部会」の取り組みをお話しします。安全教育の学習内容は、「災害の現状や原因および防止方法の理解」「様々な危険の予測」「自他の安全に配慮した安全な行動の方法」「危険な環境を改善する力」「学校、家庭および地域社会の安全活動への参加、協力および貢献の態度」となっています。このすべてが網羅できてカリキュラムが成立しますが、今年度は「地震が起こったらどうするの」という共通単元を、学年の発達段階に応じて内容を決めだし、実証授業を通して適切かどうかを検証していきました。場と状況を想定し、どのような危険があるか考え、どう対応するか話し合う学習を行うことで、子どもたちは新たな発見をし、どのように命を守るか考えることができました。そして、家族をも巻き込みながら安全に対する意識を高めていくことができました。

さらに、単独単元のみでは幅広い防災に対する知識を得ることができないと考え、他教科との関連も志向し、実践を通してカリキュラムに反映していきました。授業を通して地震の恐ろしさとそれに対する対処の方法を学び、環境を整えることで被害を最小限に留めること。この2つに取り組んだことで、子どもたちの中に「すばやく判断ダンゴムシ」という合言葉が自然と定着していきました。本校はこの研究を単年度研究とせず、3年研究と据えました。今年度は研究一年目。まだ緒についたばかりです。一年目の研究を通しての成果と課題は次の通りです。

まず成果は、「学校教育活動のあらゆる場面を『子どもの命を守る』視点で考えること」に気づくことができたことです。そして、「安全教育の体系化の必要性に気づけたこと」です。児童・職員・地域みんなの知恵を結集することで、安全な環境をつくりあげていくことが可能になります。失敗を恐れず、発想→構想をしたらやってみる。そして検証してみることを継続していきます。

一方、課題も残りました。年間指導計画を作成しましたが、さらに検証を続け、よりよいものにしていく必要があります。単独単元の配列の適正化、他教科との関連の検証はまだまだ不十分です。そして、防災を学習するにあたっては保護者や地域の方々の理解や協力が必要不可欠です。本校の学びを広く伝え、理解の輪を広げ、地域一丸となって防災に取り組む西春近にしていくこと。その発信源を学校が担うことも必要かと思っています。もちろん防災に強い施設面の充実も、忘れてはいけません。関係諸団体と連携しながら段階的な改善が求められます。

以上、私たちのつたない研究の一端をお話しさせていただきました。この伊那谷も東海地震の警戒地域に指定され、もうかなりの年数が経っています。東日本大震災や北海道地震と、周辺では大規模災害が発生していますが、まだまだ「対岸の火事」のような意識なのかもしれません。しかし、「災害は忘れた頃にやってくる」の言葉の通り、いつ起きてもおかしくないのが地震です。子どもたちの命を守るのは、私たちの使命です。それを心に刻んで、これからも研究を続けたいと思っています。



## 【協 議】 「上伊那教育会会員増の取り組み」について

### ＜主な意見＞

- 山本代議員〔南箕輪小〕…本校では村費の先生方も入っている。様々な先生方に積極的に声をかけることが大切か。会費の使い方が見えるようにすると、子ども達のために使っていることがわかり、若い人や他郡からの転任者にも入会のアピールになるのではないか。
- 石原代議員〔美篁小〕…教育会の業務には負担感をもつ人もいるが、活動の中でメリットがあることを語り、勧誘することが大切ではないか。



- 西村代議員〔箕輪東小〕…会のメリットを語ることや、人と人とのつながりの中で同世代の先生同士の具体的な語りが有効ではないか。参加してみるとわかる他校の先生との交流を紹介していくことが大切。困っていることやお金(会費)がかかることなど、なぜ入会しないのかについても話を聞き、理解することも大切ではないか。
- 唐木代議員〔赤穂南小〕…パンフレットで勧誘することが有効である。また、どういう世代で会員が減少しているかがわかれば、このパンフレットを使ってその世代に集中してアピールすることが有効と考える。
- 清水代議員〔西箕輪中〕…(入会の)声をかける側が、信頼されるようにありたい。今年はだめでも来年度はどうかと声をかけていくことも必要ではないか。



＜飯澤会長の総括＞・各代議員の意見を受け、飯澤会長が以下のように総括した。

話し合うことが大切である。自分の経験を語ることや、人と人がつながることの大切さを声かけしていくことも行いたい。また、4月だけでなく、5月、6月と事業に参加してもらいながら勧誘していくことも大切な取り組みになる。代議員の皆さんに頑張ってください。

### 【閉会の言葉】（林 武司 副会長）

年度末のお忙しいところ、本日は平成30年度最後の総会にご出席いただき、次年度の事業計画案並びに予算案を審議していただきました。代議員の皆様方のおかげで、来年度の準備が整いつつあることに心から感謝いたします。また、1年間議長をお務めいただいた小島先生、同じく副議長の小松先生には、スムーズな進行をありがとうございました。能研修団体である上伊那教育会が、明治12年以降一世紀を越えて存続し続けているのは、時流に流されることなく、本質をしっかりと見極め、「はじめに子どもありき」「かぎりなき土着性の追求」「たゆまぬ教師の研鑽」の理念を、先輩から後輩へと大切に、しかも確実につなげてきたからだと思います。今後もこの理念をさらに会員一人一人が自分の実感として共有できるものとなるよう、諸事業を推進していきたいと思っています。

今年度「共学」「共育」をキャッチフレーズに、それぞれの事業に取り組んでまいりました。先輩と後輩が、また同僚や仲間と、共に学びあうことで、それぞれが共に育つ教育会、そのような中で、子どもの前に立つ教師としての自らのあり様を見つめ、問い直してきました。来年度以降の事業も、教師としての資質向上を図ると共に、人としても成長できるような研修事業の充実に努めて参りたいと思っています。